

9月 定例教育委員会会議録

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 日 時 | 平成30年9月27日(木) 午後5時30分から午後7時38分まで |
| 2 | 会 場 | 磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室 |
| 3 | 出席者 | 村松啓至教育長
秋元富敏委員 青島美子委員 杉本憲司委員 鈴木好美委員 |
| 4 | 出席職員 | 秋野雅彦教育部長、菌田欣也教育総務課長、山本敏治教育総務課参事兼学府一体校推進室長、加藤計吾児童青少年政策室長、木野吉文学校給食課長、小澤一則学校教育課長、伊藤八重子中央図書館長、高梨恭孝文化財課長、磯部公明地域づくり応援課長、鈴木都実世幼稚園保育園課長、大庭茂文化振興課長、岡本由紀子ひと・ほんの庭にこっと主幹 傍 聴 人 0人 |

(進行委員：秋元富敏委員)

1 開会

2 教育長あいさつ・教育長報告

みなさんこんにちは。天候不順が続き、学校では体育大会が延期になるなどで、行事の日程調整の日々が続いており、土木業者は、雨が続き思うように仕事が進まないという話も聞いています。台風24号が近づいておりますので、その進路に最大限の注意を払い、学校給食の対応等について慎重に判断をしたいと考えています。

先日、向陽中学校で行われた、「ウェルカム赤ちゃん」がNHKと民放1社の取材を受け紹介されました。参加した子どもたちからも好評であり、大変良い事業だと感じました。

一昨日、国際交流協会の主催で、オーストラリアの子どもたちが富士見小学校を訪問しました。新聞にも大きく取り上げていただきましたが、ヤマハ発動機ジュビロの選手も参加していただき、ラグビーをテーマにした、いろいろな交流活動が行われ、大変工夫したおもてなしができたと思っています。

NHKのナビゲーションという番組で、「磐田スポーツ部活」が紹介されました。中学校で廃部となった陸上活動が取り上げられており、子どもたちの活動希望を踏まえて、市が中心となり事業を進めているという内容でした。公営の部活動の取り組みは、近隣の県の中では初めての取り組みということもあり、いろいろな地域から注目されています。開始当初と比べ、今は大分活動が充実してきていますし、今後の方向性として、スポーツ戦略室のこれまでの努力を生かせるような活動にしていきたいと思えます。静岡県全体、日本各地のみなさんの思いを受けつつ、継続していきたいと思えます。

昨日の新聞に、36協定の記事が掲載されておりました。「小中事務職残業協定なし」などの表題で報道されておりました。磐田市では、過去に36協定締結について調査、研究をした経緯があり、その結果、給食関係の職員のみと締結し現在に至っています。磐田市の学校事務は、市費事務と県費事務が勤務していますので、県費事務については県当局と相談をしながら十分検討していき、時間外勤務について違法とならないように十分検討し対応していきたいと考えています。

現在、磐田市カリキュラムの研究会を行っております。これは昨年度から始まり、磐田市の小中一貫教育のカリキュラムをどのようにするのかを、代表の先生方と一緒に研究している会です。重点内容として幼保小の連携、学び直し、学び進め、中高の連携について研究をしています。先日の

会議の中で、幼稚園保育園教育が話題になりました。ロバート・フルガムの言葉に「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」というものがあります。それを受ける形で小学校と幼稚園の連携を深めるということで、1年半経過した今、カリキュラム研究の終結として、そのことにたどり着きました。それをもとに幼稚園・こども園の関係を十分に考えていきたいと思っています。

第2期磐田市幼稚園・保育園再編計画において、幼稚園・こども園・保育園の再編に伴う民営化があります。その理由は、第1に現在の保育ニーズの急激な増加、第2に園舎の老朽化、第3に建設コスト等の集中化があげられます。それらを解消すべく総合的に判断して、第2期の再編計画が立てられました。したがって、東部幼稚園の民営化も3つの条件を満たしているためのもので、市長・副市長と相談を経て、総合的な判断とし実施されるものです。ただし、これから再編をしていく中で、全てを民営化するというのではなく、次期磐田市幼稚園・保育園再編計画の中で、公営、民営について考え、3つの条件のもと、磐田に適した形にしていくことが必要であると考えています。それらのことを踏まえ、民営化に伴うプロポーザルの関係も、先ほど申し上げた3つの条件と、磐田市の教育施策をもとに展開していくこととしていますし、民営、公営にかかわらず、小学校との連携を必ず強化する考えでいます。

今回の民営化の流れについては、磐田が考える学びを必ず保証する中で進めています。全体的な計画については、今後検討の余地があると考えています。

本日もよろしくお願いいたします。

3 前回議事録の承認

8月30日定例教育委員会

- ・修正の意見なし
- ・原案のとおり承認

4 教育部長報告

9月議会について報告させていただきます。9月6日から10月11日までの36日間の会期となり、現在開催中でありまして、一般質問、議案に対する質疑、委員会の審議などは既に終了したところです。一般質問の答弁内容につきましては、教育委員会関係では7人の議員から質問が出されております。今回は、この夏に猛暑、風水害が多かったということを反映しまして、猛暑対策やエアコンの早期設置、それから、防災対策やその教育などについて、複数の議員から質問等が出されているところです。

答弁内容といたしまして、エアコンの早期設置につきましては、予算にかかることですので市長答弁となっておりますが、遅くとも平成33年4月までには整備完了を目標として進めていきたいというものです。整備期間については、短縮したい思いはありますが、県内を含め全国の自治体が同時期に整備を進めるような状況の中で、設置する機器、工事関係者の確保が課題になることも想定されますので、なかなか難しい状況になっています。

<質疑・意見>

なし

5 議事

(1) 議案第44号 磐田市指定文化財の指定について

○豊岡地区の遠州大念仏の市指定文化財無形民俗文化財の規定についてご審議をいただくもので

す。なお当該指定文化財候補物権は、8月31日に開催した磐田市文化財保護審議会において、指定文化財に指定することが適当であると決議され、同日、教育委員会宛てに上申書が提出されたことを受けて、本日の議案として提出させていただいております。今回の候補物権でございますが、指定名称は、豊岡の遠州大念仏、員数は1となっておりますが所有者及び所在地にありますように7つの大念仏団から構成をされているものです。

次に指定の理由についてですが、戦国時代戦乱による社会混乱を和らげるため、徳川家康が親しみやすく簡単に信仰できる念仏踊りを奨励したと伝えられています。中世から続く念仏踊りを基盤に継承発展したものが大念仏であると言われておりますが、豊岡地域におきましては、この大念仏が初盆の供養として大切にされてきたことや、社会状況の変化などにより、大念仏が途絶えた地域も多い中で、この地域においては地区を上げて、江戸時代からの古い所作を稔昌していることなどが今回の指定の理由となっております。指定基準が設定されていまして、今回はその風俗慣習のうちの、年中行事、祭礼、法会等の中で行われる行事で芸能の基盤を示すものと、民俗芸能のうちの地域的特色を示すものに該当するものと考えております。平成28年度と29年度に、各地区の大念仏の映像保存をしました。文化財としての価値を再認識したところでありますが、新たに市の指定民俗文化財の指定により、今まで以上に保存伝承していこうという機運が高まるものと期待しています。

<質疑・意見>

○遠州大念仏は既に文化財に指定されていると思っていました。

○遠州の大念仏については、浜松地区は県の指定を受けているものもあります。磐田市におきましては、旧の豊田町の加茂の大念仏、これについては市の指定文化財という形になっていて、今回指定の大念仏はそれらの大念仏と比べても決して劣るものではありません。豊岡の大念仏はもともと浜松地区のものが伝わったと聞いております。浜松の地区でも大平や北遠などの種類があり、同じ地域の中でも、古くからの伝統を引き継いでいるようです。磐田市文化財保護審議会の意見も、「本当にこれは貴重なものだから、指定して残しましょう」という意見もあり、今回指定することで、地域の人たちも非常に喜んでいただくと同時に、この文化財を守っていかなければいけないという部分を強く感じていただいたと思っています。市としては、ホームページ等で情報の発信に努めたいと考えています。

○念仏を見せていただいたことがあります。哀愁を帯びていて、すごく良いものだと思います。

○DVDを見ましたが非常に上手く編集されていて大変勉強になりました。

○念仏は大勢の人が必要になります。人を揃えるのが難しくなっていると思います。そういう面で市の支援は何か考えていますか。

○直接的な支援は、なかなか難しいと思いますが、情報の発信という点を市としてやっていこうと考えています。豊岡地区に限らず、各地区の民俗芸能やお祭りなどを継承することは、人口減少の中、難しいという話をよく聞きます。どんなことができるのかということは、それぞれの地元でも考えていただくわけですが、市として何ができるのかを考え、今後も伝統文化等を守っていくことに力を入れていきたいと考えています。

○中学生などの子どもたちが頑張っている地域もありますので、ぜひとも応援したいと考えています。

○子ども念仏というものがあり、ある地域では子どもたちが13もの念仏歌を覚えるようです。その念仏にすごく哀愁を感じます。そのようなものが大分少なくなっています。豊岡地区にはまだこ

のような文化がありますので、見ていただけたらと思います。

○民族芸能は、ほかの文化財と違い物ではなく人に左右されるものと考えています。そういう意味では、継承は難しい部分が多いと思いますが、地域の誇りを自分たちで守っていかなければならない、という意識を強く持ち続けていけるよう支援をしていきたいと思っています。

<議案の承認>

一同同意

審議の結果、議案第 44 号は原案どおり承認された。

6 報告事項

(1) 地域づくり応援課

<質疑・意見>

なし

(2) 文化振興課

・新しい文化会館の基本設計について

○新しい磐田市文化会館は基本設計が完了しました。これから詳細な設計にあたる実施設計に移り、来年度末には建設工事を発注する予定です。この新しい文化会館は、事前に建設検討委員会を開いておりまして、市民のみなさんの意見をお聞きして、基本構想、基本計画を進め、基本設計という形になりました。今回、みなさんに見ていただける形になりましたので、今月末の市長の定例記者会見の発表などで、市民の方へリリースしていきたいと考えております。新しい市民文化会館の基本的なコンセプトですが、シンプルでありながら機能性にとんだ、品格を備えたつくりで、座席の幅を広くトイレの数を充実させています。現会館にはないロビースペースを確保し、イベントが始まる前でも会館の中で待つことができるようなスペースを確保しました。座席の空間、つまり一人が占める面積ですが県内 1 の広さといっているかと思っています。その設計に当たり、市民の方や高校生のワークショップを行いながら、ご意見をいただき設計に反映させております。

次に、設計の概要についてです。座席のほうは 2 層式で座席数 1, 500 程度を予定しています。1 階席に 1, 000 席、2 階席に 500 席を配置します。通常利用ですと、1, 500 席が全て満席になるということばかりではないので、1 階席を利用した中ホールの利用も想定し設計を考えております。ロビーについては、開演前に室内で待つことができるスペース、交流ロビーを整備します。シンプルな動線を予定していて、観客と演者の動線区分を明確にしております。化粧室ですが、特に女性のトイレについては洋式トイレを完備し、数は、今の文化会館の倍程度になるような設計を考えています。

敷地全体の配置は、アミューズ豊田、ひと・ほんの庭 にこっと、新しい文化会館が連携できることを考慮した配置を予定しております。

アミューズと新しい文化会館の間に道路がありますが、なるべく歩行者優先にできるように検討しております。今の文化会館は、椅子に長時間座っていると、お尻が痛くなるような感じがありますし、また、座っている方の前を通るといのは無理があります。新しい会館ではその空間もなるべく確保したいと考えています。スケジュールになりますが、基本設計を完了し、来年の秋ぐらいまでは、詳細な設計と積算をし、平成 31 年 12 月には建設工事を発注し、約 2 年の工事を実施する予定です。平成 34 年 4 月に、新しい会館をオープンさせたいと考えています。

新しい文化会館が完成し、今の文化会館を取り壊すというのが本来のストーリーだと考えていましたが、今年に入り、みなさんの安全にかかわるような大きな会館の故障が発生してしまいました。

例えば、水道管が破裂してしまい、1日で900トンの水が出てしまいました。その量は学校の50メートルプール1杯分ぐらいの水になります。破裂箇所の特定がなかなかできませんでしたが、水道を引くメーターから受水槽までの間の水道管ということが判明しました。管の老朽化が激しいこともあり、通常の修繕方法ではなく、メーターから受水槽までの間に仮設配管を設置し、現在は、地上に管が露出している状態です。それから、バッテリーの故障が発生しました。そのバッテリーの役割は有事の際の非常灯への電源供給になります。これはお客さんの安全にかかわることになります。それらを復旧するのに、水道管は3日程度かかり、バッテリーは5日程度かかりました。このような事が続くと、事前に予定をいただいていた興行主等に多大なご迷惑をかけますし、何より利用者の安全にかかわることになりますので、一度ここで予約を止め、閉館の検討に入るという決断をしました。この件は今回の定例記者会見で新しい会館の建設の話とあわせてメディアに公表させていただきます。利用者の方には、ダイレクトメールで説明させてもらうことや、年間を通して、何日か続けて利用される方や、利用者が多いイベントの主催者などには、我々のほうで直接話す形で説明させていただいております。

<質疑・意見>

○1階だけの利用の場合、料金はどうなりますか。

○料金については現在検討中です。

○現在の会館と新しい会館とで座席数の増減はありますか。

○今の文化会館と同じで1,500席を予定しています。

○リハーサル室は今までなかったのですか。

○今までもありましたが、少し狭い空間でした。新会館では、主舞台と同等な広さを持つリハーサル室の設計を予定しています。用途としては、リハーサル室や控室というようなことを想定しています。なお、音を出しても差しさわりのないぐらいの防音対策の部屋です。

○県内最大級の座席のスペースということですが、どれぐらいのスペースですか。

○椅子の広さは54cmと96cmぐらいです。我々が調べた中では県内最大になると考えています。

椅子が変わりますので、大分座り心地は変わると思います。

○駐車場の件ですが、アミューズ豊田などの施設があるなかで、1,500人が集まった場合足りませんか。

○配置計画では、新しい文化会館の敷地で300台。アミューズ豊田周辺と新造形創造館の駐車場をあわせると約900台になります。現在の市民文化会館は臨時駐車場を合わせ、750台程度です。その750台を超えたことは過去にありません。ただ、アミューズ等でイベントが重なった場合、その調整が必ず必要になると考えています。逆に文化会館の利用がないときは、アミューズに来られた方が文化会館の駐車場にとめることも可能だと考えておまして、相互利用をすることが一番効率的な利用の仕方だと考えています。

○公共交通機関を利用したアクセスについては、どう考えていますか。

○新たに路線バスを計画してもらうということは、今の路線バスの状況では不可能だと考えます。可能性としては、駅からシャトルバスの運行が挙げられます。同じようなケースの他の自治体の事例等を調査し研究している状況です。

○「ひと・ほんの庭 にこっと」などもありますので、交通弱者にとって利用しやすい交通手段の

検討をお願いします。

○現会館の閉館が早まりましたので、新会館を少しでも早くオープンさせることで、少しでも多くの皆さんの催しをするのに不便がないように検討していただきたいと思います。

○閉館の検討に入るとのことですが、いつまでの予約を受け付けるのか。

○平成31年9月末利用分までの予約を受け付けたいと考えています。

(3) ひと・ほんの庭 にこっと

・磐田市中学生スタートアップ応援事業について

○スタートアップ応援商品券の引きかえ券を対象者あてに送付したいと考えております。通知を事業対象者の保護者のみなさんにお渡ししますが、この事業の一番の基本であります、応援の気持ちの伝え方について、前回教育委員のみなさんからご意見をいただきました。ご意見の中に、子どもたちに送りたい応援のメッセージをみなさんで決めて、それを手書きで書いて送付したらどうかというご意見がありました。現在そのメッセージの候補を5案に絞り、その中から1案を選んで、できるだけ多くのみなさんに手書きをしていただき、それをフォトフレームに入れ込み、商品券の引換時に手渡しができたらと考え進めています。

案ができましたら、みなさんにご協力いただいて、メッセージを書いていただくことをお願いしたいと思っています。

<質疑・意見>

○にこっとで商品券を引き換えると聞きましたが、「車がない人はどうするのだろう」と思いました。にこっとに来てほしいというのは、すごく伝わりましたが、交通手段が少し心配になりました。

手紙の内容も少し悲しい感じがしました。もう少し意気揚々と頑張ろうという感じのほうがよいと思いました。

○みなさんに「頑張れよ」と言い過ぎるのも辛いのではという思いもあり、このような表現になっています。

○保護者の皆さんにお渡しするものであれば、もう少し明るい励まし感のある文章にしたほうがよいと感じました。

○11月になりますが、にこっとの敷地に山羊が来ることになっています。柵をつくり、小屋を置いて、そこに小さめのミニ山羊になりますが、2頭の雌が来る予定です。名前の募集もしていきたいと考えております。

○にこっとの入場者などの状況はどうでしょうか。

○土日は一日に1,000人ぐらいの方にお越しいただいております。平日は、500人ぐらいの来場者があります。平均すると一日600人ぐらいになるかと思えます。本のほうも順調に貸し出しがされています。以前の図書館と比べて、滞在時間が長いというところが違うと感じています。朝お子さんと一緒に来館され、遊んで、お昼を食べて、午後も過ごし、夕飯時になると帰るというような一日です。土日はコンビニではなく、手づくり弁当を持ってきて、ご飯を食べて、勉強して帰るというお子さんもいらっしゃいます。飲食スペースは、席がなくなるくらい混雑しています。

○お母さんたちの悩み事相談の状況はどうですか。

○土日の混みあっている時間帯ですと、職員も接客等で手いっぱいなかなか話を聞く雰囲気がない状況ですが、平日だと、「ちょっと相談したいのですが」という声をかけていただくことがありますので、需要はあると感じています。ハローワークの就労相談を水曜日と金曜日に行っています

が、水曜日の需要が多いです。1時半から4時半までの3時間という時間ですが、途切れることなく相談にきていますので、そういった点でも需要はあると思っています。

(4) 幼稚園保育園課

・磐田市立幼稚園等民営化提案プロポーザルの日程変更について

○今年度4回の検討委員会を開き、プロポーザルを実施する予定であります。年度初めにスケジュールをご報告いたしました。8月に予定していました岩田こども園のプロポーザルにおいて、参加表明法人がなかったことから、日程の変更が生じたので、今回報告をするものです。

こども園については11月21日、竜洋西と竜洋北保育園の統合園については、1月29日にそれぞれ変更し、実施していく予定です。

この変更をすることにより、当初の予定どおり4法人を選定していくことができると思っております。直近では、10月1日に東部幼稚園のプロポーザルを実施する予定です。

<質疑・意見>

○この4園は民営化するという事は決まっていますか。

○そうです。社会福祉法人または学校法人という事などの条件を付して公募していくことで決まっています。

○一部の市民の人たちから、民営化について納得のいく説明を受けていないという声が耳に入ってきています。どのような説明の進め方をしていますか。

○それぞれの地域では、保護者のみなさんをはじめ自治会等へも説明をしております。昨年度から実施してきています説明会では、なるべく多くの方に事業の目的や効果など、市が目指しているところをご理解いただけるよう丁寧な説明を心がけてきており、現状として地元のご理解はいただいているものと認識しております。しかしながら、説明会後に私たちにではなく、委員さんに私たちの認識と違うご意見等が届いているとすれば、説明会の場で発言しにくい雰囲気があったのかもしれない。今後も含め、委員さんにそのようなお話が届くことがあった際には、幼稚園保育園課に直接お話しいただくこと、いつでもお話を伺うことをお伝えいただければありがたいです。

○磐田市全体で、保育ニーズや建物の老朽化や金銭的な問題があることはわかりますが、当事者となると、「何で自分のところなの」など考えてしまうことがあると思います。例えば磐田市全体が民営化されるのであれば納得する部分はあるかと思えます。

市民になぜ民営化するのかと聞かれたときに、答えるのが難しいことがありました。

○説明会では、保育ニーズが多くなってきていること、施設の老朽化が進んでいること、それから費用的なことを踏まえて、それらの課題に、早急に対応するために官民一体となって取り組む必要があり民営化を実施していくということで説明してきています。

○保育ニーズの急激な高まりというのが大きいと思います。学府の説明会を現在実施していますが、そのときにいろいろのご意見をいただきます。当然反対の意見も多数いただくこともありますが、このような事業を進めるときには、できるだけ多くの自治会等に出向き、みなさんの意見を聞くとともに、市の考えを伝えることでご理解をいただいています。幼稚園についても地域のみなさんから説明会の要望があるようでしたら、是非、私もその場に伺い話を聞かせていただければと考えています。委員が地域のかたから聞かれた、工事等の補償、保育料、先生たちへの研修、幼小中の連携等については、民営化になったとしても公立と同じような方策を考え対応していきますので安心してください。

○県教育委員会が主催で開催する職員研修も、公立だけという研修は減ってきており、私立の園の先生たちと一緒に参加する研修が増えてきていて、公立だけ参加する研修は少なくなっています。最近では公立、私立の隔て区別なく実施され、公立、私立で教育のレベルが上であるとか下であるなどのご心配は不要だと思っています。

○保護者のみなさんに納得のいく説明をしていただくというのが一番いいと考えますので、今後よろしくお願いいたします。

(5) 教育総務課

○「第3回子供・若者政策懇話会」を10月12日に開催します。本日は懇話会でこんなことを検討していますということをご報告させていただきます。ひとと自分に「一日一善」という冠をつけた4つの取組ですが、このうち、取組1から取組3までに共通することとして、これらは、現状、既に取り組んでいる具体的で分かりやすい内容の取組であり、これを大切な取り組みとして市内全域に取り組んでいこうという音頭をとって進めていこうというものです。取組1の横断歩道で「ありがとう」ですが、これは、例えば「挨拶をしましょう」という言い方でも良いのですが、場所や相手、あいさつの言葉を具体化することで、より分かりやすくしています。こうした光景を見ることは、親、大人の教育にもつながるということで取り上げています。取組2のラジオ体操への参加ですが、これは多世代交流の大切さということで取り上げまして、子ども達への参加を呼びかけたうえで、現状は13地区で実施しているものを市全体に広めていこうとするものです。取組3の赤ちゃんとのお触れ合いですが、これは、会の冒頭、教育長からのごあいさつでお話しのありましたウェルカム赤ちゃん事業のことです。命と愛情の大切さを赤ちゃんとのお触れ合いの中で感じるとともに、赤ちゃんを持つお母さんと生徒のお触れ合いも良い体験になるとの思いで、現状、5つの中学校で実施している事業を全ての中学校に広めていこうというものです。取組4は、「子供・若者支援センター」の開設ですが、中学校卒業から30歳ぐらいまでのひきこもりや不登校の支援、これは親への支援も含めてになりますが、居場所作りや就労準備支援、相談支援などを行おうとするもので、スタッフ案などが記載されていますが、内容的にはまだ固まっているわけではなく、現在検討中です。

この4つの取組案については、平成31年1月に開催する青少年健全育成大会を、全市展開に向けて取り組んでいく発信の場にしたいと考えています。なお、今後の検討課題ということで、2つ取り上げています。この2つの取組はいずれも地域活動の担い手がいるか、という点が課題であって、現時点では人材などの面で地域ごとの実情が異なりますので、検討課題としているものです。前回までの懇話会の中でこうしたことを検討し、進めていこうとしています。

<質疑・意見>

○子供・若者支援センターの開設というのはどのようなものですか。

○中学校卒業から、30歳ぐらいまでの若い世代の相談機能を中心に考えた施設を想定しています。

例えば「中学校までは登校できない子どもがどれくらいなのか」ということは、市で把握ができていますが、卒業してしまうと把握が難しい状況となります。そのような中でも、中学卒業から繋がりがあろうな30歳ぐらいまでの世代であれば、そのような状況把握が可能ではないかと考えています。

○子供・若者支援センターの役割として、高校生以上の子を持つ、親と子に対する相談機能と考えています。例えば、親と子の2人で生活するお宅で、不登校になってしまった家庭があるとすると、その親はものすごい大変さを感じることがあります。不登校の子は友人や大人との会話が絶たれて

しまいます。そのような家庭に対して市の誰かが声掛けをすることで、親と子の気持ちを少しでも楽にしてあげることをしていくセンターが子供・若者支援センターです。

中学校卒業後に不登校や家から出られない若者の把握は非常に難しい状況ではありますが、実際に存在しているのは事実です。そのような若者を一人でも多く把握し、救いの手を差し伸べていくことが出来ればと考えています。

○向陽学府の説明会の状況について教えてください。

○地域づくり協議会の委員の方や、地域の団体の代表者に集まっていた場で説明をさせていただいき、向陽地域は3地区ありますが、全て終了しています。PTAの代表者、学校運営協議会委員の方や教職員にも同じ説明をさせていただいています。今回の説明内容については概ね理解をしていただいていると考えています。説明会では、「通学距離が長くなったときどうすれば良いのか」や、「小中一貫教育のデメリットはないのか」、「多機能型の施設とはどのような施設か」というような質問がありました。今後の予定として、幼稚園、保育園、こども園、小中学校の保護者を中心に、地域住民の皆様を対象とした説明会を3地区で開催することを考えています。案内については、向陽地区の幼・小・中の保護者に配付するとともに、それぞれの自治会の中での回覧を考えています。

○今後少子高齢化という問題がさらに深刻化する中で、学校規模という観点を中心とした統廃合の議論が前面に出てくることになるとは思いますが、そうではなく、幼小中一貫教育の実を上げるような、攻めた取り組みを果敢に挑んでいただきたいと思っています。

○一体校を進める大前提として、規模の適正化の再編ではないということがあります。小中一貫教育やコミュニティスクールをより充実、発展させていくという考え方で進めています。

○磐田市が小中一体校を選んでいるのはなぜですか。

○全国的には2つの動きがあります。義務教育学校は1人の校長が小学1年生から中学校3年生まで全体を統括します、教育課程の中で前倒しなどが可能ですが、あまりメリットを感じていません。当面、小学校は小学校、中学校は中学校という型をとり、小中学校が連携していく一体校の方向で考えています。

○カリキュラム研究会がありますが、学年の区切りも含めた大きな見直しということで研究がされているのですか。

○向陽学部の説明会の中で、幼稚園・保育園との連携を視野に入れた教育をしていきたいことを提案しています。幼小中がより連携を強固にしていくことで教育がより充実していくと考えています。

○義務教育に入る前の教育について非常に注目されていると思います。幼児教育の議論はしっかりとやる必要があると考えています。先ほどの民営化の話も、関連してくる問題だと考えています。

○まさにその議論が現在、カリキュラム研究会の中で行われています。特に、幼稚園、小学校前半の時期は人とかかわりの中で多くのことを学ぶことを通して心身の成長を図っていくことが重要であると思います。そこでどういう教育をしていくか、それを実現するために、どのような仕組みでどのように繋げていくのかを研究しているところです。小中だけではなく、幼稚園・保育園とも連携しながら、磐田市全体で進めていく考えでいます。今まで以上に保、幼、こども園と小学校との連携は確実に深まるとは思っています。

○日本は保育園は厚生労働省、幼稚園は文部科学省というように管轄が2つに別れています。日本の国の社会構造の変化を受け、急激なスピードでこども園化が進み、幼稚園、保育園を再編成しようとしています。現場はその流れについていけず、言わば発展途上の状態です。これは一気に保育ニーズが高まっているということです。放課後児童クラブについて言えば、信じられない数のニ

ーズがあり、運営側は苦慮しているところです。そのような中で、幼稚園、保育園、こども園での教育のあり方が大分進化してきていますので、幼小中の連携についてはしっかりと進めていく必要があると考えています。

向陽学府については、ながふじ学府と同じ形をとるのではなく、その地域の人たちと一緒に話をし、まったく新たな学校を作る考えで話をしています。例えば、「向陽は日本一、思いやりが育つ環境、これから22世紀に向けての新しい学校を向陽でつくります。一緒にやりませんか」というような、将来像をみなさんに示し、進めているところです。

○それぞれの地域性の中で、子どもたち一人一人の顔を見ながら、そこにあった学校をつくることは、非常に良いことだと考えます。

(6) 学校給食課

○9月から幼稚園給食のアレルギー除去食の提供が始まりました。幼稚園全体で11名に対して、アレルギー対応食を実施しております。

<質疑・意見>

なし

(7) 学校教育課

・平成30年度全国学力・学習状況調査について

○小学校は平均正答率・正答数においてすべての教科で、国、県の平均を上回っています。中学校は、いずれも、国の平均を上回りましたが、国語B、理科は県の平均と同じですが、その他は県平均を若干下回りました。各結果の概要についてですが、国語科においては、小中学校ともに、文の順序や構成を考えて書く問題や、中学校では、中B1の二「文章の構成や展開について、自分の考えをもつ」問題については、県国と比べ高い正答率であるという結果でした。課題としては、文の中で適切な漢字を用いることに課題が見られました。小学校は、「せい造」や「せつ備」は県は上回りましたが、国を下回り、中学校では、「束ねる」、「幕」、「許す」は国、県ともに下回っています。正答率の高かった学校の実践例を調べ、広めていきたいと考えています。算数・数学では、式や計算の意味を考えられる子を育てることを大切にしてきた成果が見られます。課題としては、得られた情報をもとに、多面的な考え方ができるような力を伸ばしていきたいと思えます。小学校では、2問を除きすべて国、県を上回っておりますが、メモの情報とグラフを関連づける問題や、棒グラフと帯グラフから読み取る力が、国か県のどちらかよりも劣るという結果になりました。また、中学校では、数学Bの中にある確率の問題では、確率の考え方はわかっているにもかかわらず、実際の状況に応じて、どのように判断したかの理由を数学的な表現を用いて説明することが十分にできていないことが分かりました。理科については、小学校は国、県よりも正答率が高く、中学校は、国よりも正答率が高いが、県よりは低いという結果でした。全体の傾向としては、実験結果をもとに考える力が育っており、小学校では、「一度に流す水の量と棒の様子から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけ」が25.3%と、国や県と比べ高い正答率となっています。中学校では、「テレプロンプターのモデルの光の直進や反射の規則性などを説明できる」が76.5%と、国や県と比べ高い正答率になっています。児童・生徒の質問紙の調査結果でございますが、「自分にはよいところがあると思う。」という質問に対して、「はい」と回答した割合が小学校・

中学校とともに全国より上回りました。小学校では、86.5%と昨年度よりも6.9%の増、中学校では82.8%と昨年度よりも5.3%の増となっております。このように、本市の小中学校においては、自尊感情についてはある一定の高さを示しているのではないかと考えております。

また、「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」等の地域との関わりについては、全国・県と比較しても本市では高い数字を示しており、特に中学校における「今住んでいる地域の行事に参加している」は、国が45.6%に対し本市は81.1%と35.5%と大きく上回っているのは、地域とともにコミュニティスクールを推進している成果が表れているのではないかと考えています。

昨年度この場で、「国語の勉強が好きか」のことにについて、報告しましたが、本年度はその質問はありませんでした。昨年度の実態として報告したことは、小学生は少しずつ改善傾向はあるものの9ポイント弱、国より低いこと、中学校においても、平成27年度から低下傾向にあり5ポイント程度低い状況になっていることがあり、これを課題として報告しました。

しかしながら、今回の質問紙にその項目がないことから比較はできませんが、小学校については、国語A、Bともに、正答率の国平均との比較では、昨年度以上に上回っていることや、中学校では、特に国語Bの正答率は、昨年度以上に上回っていることから、これまで課題として取り組んできた成果が表れてきていると考えています。

算数・数学が好きという児童生徒の割合が高かったですが、理科が好きという割合は、中学校は全国より高いですが、小学校は全国より下回る結果となりました。さらに、小学校理科では、実験は行われているが、観察や実験の結果からどのようなことがわかったのか考えていると感じているかという質問紙には全国より下回る結果となっています。これは、先に述べたとおり、実験結果をもとに考える力が劣っているというわけではありません。今後、小学校において、様々な場で考えることの大切にした指導を行っていきたいと考えています。

今後の働きかけにも関連する点ですが、特に家庭・地域のところについては、児童・生徒の質問紙と正答率とのクロス集計、相関関係を見たところ、平日1日あたり1時間以上家庭学習を行っている、家の人と学校での出来事について話をしている、地域行事に参加しているなどの該当項目数が多い児童・生徒は正答率が高いという傾向が出ています。

今後、この市全体の結果を、各校の児童生徒の実態をもとに、学校へは提言を、保護者には、リーフレットにまとめて配付し、さらに充実した教育が行われるようにしていきます。

<質疑・意見>

なし

(8) 中央図書館

○・平成30年度図書整理日の変更について

11月の福田図書館の図書整理日についてですが、11月22日から15日に変更させていただきます。これは条例どおりに休館日を設定すると、11月23日が祝日のため22、23の2日間の連続休館となってしまいうため、連続休館を避けて、市民サービスの向上を図るものです。

<質疑・意見>

なし

(9) 文化財課

○遠州大念仏記録保存事業報告会ということで、10月27日になりますが、市の指定文化財になったことを記念し実施するものです。内容として、文化財の指定書の交付ということで、当日は教育長から各組の代表者に指定書を交付していただきます。それから各組の代表に「自分たちの組はこういう特徴があります」ということを、実際に作成したDVDを見ていただきながら、説明をしていただきます。それから、文化財保存委員会の先生から、遠州大念仏についての概要説明があります。主催は磐田市教育委員会ですが、自治会連合会豊岡支部や、豊岡地区の地域づくり協議会が共催という形で地域と一緒に実施するものです。豊岡地域だけではなく、多くの市民の方にも知っていただきたいということがありますので、10月の広報や、プレスに情報提供をして、より多くの人に、豊岡地域の遠州大念仏を知っていただければと考えています。

<質疑・意見>

なし

7 協議事項

なし

8 その他

○「明日にかける橋」という映画が公開されています。磐田市教育委員会の後援を受けて、舞台は袋井、磐田、森の3市町となっています。みなさんが知っている風景も頻繁に出てきますし、家族のきずなに焦点を当てた映画で、感動を呼ぶ構成になっています。

9 次回教育委員会の日程確認

・定例教育委員会

日時：平成30年10月25日（木） 午後5時30分から

会場：市役所西庁舎3階 特別会議室

10 閉会